

令和4年度事業評価書

令和3年度 事業名		1 款 項 目 資産活用推進基金費		所管区局・課	財政局管財課	令和4年度 事業評価書 番号	1 - 0 - 0 1
事業概要	実施根拠	法令等 その他	<input type="checkbox"/> 法律 <input checked="" type="checkbox"/> 条例 <input type="checkbox"/> 規則 <input type="checkbox"/>	具体的 名称	横浜市資産活用推進基金条例		
	事業の目的 (事業開始の 経緯)	本市では、高度経済成長期の社会経済の著しい発展に伴い地価が上昇する中で、事業に先行して必要な土地を確保し円滑に事業を実施していくため、昭和44年に基金を設置して先行取得資金制度を導入した。資産活用推進基金において、活用が見込まれない土地の民間売却や、事業化前の土地の運用収入を経理するための事業として開始した。					
	具体的な 事業内容	資産活用推進基金保有土地の民間売却及び資産活用推進基金運用収入を経理する。 本事業は右記に該当するため、以降の記載を一部省略します。 <input type="checkbox"/> 法令に基づく義務的経費 <input type="checkbox"/> 内部事務経費のみ					
事業実績	達成指標	指標名(単位)		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
		基金保有土地の取得(ha)	目標	—	—	—	—
			実績	0.3	1	0.3	0.2
		基金保有土地の処分(ha)	目標	—	—	—	—
	実績		6.9	1.9	1.9	16.5	
	上記の指標で定量的な設定が困難な理由		事業を計画的かつ円滑に進めるために、各事業局の計画に合わせて取得や処分を行っているため。				
	予算額・ 執行額、 事業費の 推移			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		現計予算額		5,195,825千円	2,390,851千円	1,783,839千円	49,142,366千円
		支出済額		2,116,316千円	1,007,143千円	555,247千円	48,691,574千円
		繰越額		0千円	0千円	0千円	0千円
差▲引		3,079,509千円	1,383,708千円	1,228,592千円	450,792千円		
執行率(%)		41%	42%	31%	99%		
人 件 費		一般職職員	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	
		再任用職員	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	
	概算人件費	8,785千円	8,823千円	8,770千円	8,770千円		
総事業費		2,125,101千円	1,015,966千円	564,017千円	48,700,344千円		
増▲減		—	▲ 1,109,135千円	▲ 451,949千円	48,136,327千円		
事業評価の 視点による 点検・ 検証・ 評価	本市が行う 必要性	資産活用推進基金保有土地の民間売却及び資産活用推進基金運用収入を経理する会計として必要である。					
	事業目的に 対する 有効性	公募売却による収入等を経理し、基金保有土地の縮減及び有効活用を進めている。 平成23年度には、条例改正により、土地開発基金から「資産活用推進基金」に名称を変更し、従来の役割である土地の先行取得に加え、用途廃止施設の後利用などの資産有効活用を促進することができるようにした。					
	本事業の 効率性・ 類似性	基金条例において、予算を定めることにより、基金に追加して積み立て又は一部を処分することができることと定めているため、この会計により基金保有土地の売却による収入等を経理している。					
	市民等外部 意見を聴取 する仕組みと 反映状況	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	資産活用推進基金保有土地の売払い収入や貸付収入などの運用収入を経理する会計であるため、外部意見を反映する仕組みを設定していない。				
	自己評価 及び 事業見直し の方向性	公募売却等により基金保有土地を縮減し、また基金の保有現金を確保していく。また、公共施設整備のために必要な用地先行取得については、精査の上、将来的な財政負担を勘案しながら対応していく。 時価より大幅に高い簿価での所管換えに対応できず事業未定土地の利活用が進まないことや一般会計等に所管換えされることなく事業化された土地が増加していることが課題となっている。こうした中、令和3年度に、所管換えが未了となっている供用済み土地のうち、今後国庫補助等による買替えが見込まれない土地について、一般会計へ財産を異動し、財務書類上、有形固定資産として適正に位置づける見直しを行った。また、令和3年度以降に事業化する場合の所管換え価格については「時価または簿価の低い方」とし、事業未定土地の利活用を促進していく。					

本資料は、公正・適正に作成しました。

課長

栢沼 伸茂

係長

八田羽 拓也

管財係

小沼 優里

令和4年度事業評価書

令和3年度 事業名	2 款 項 目 都市開発資金事業費		所管区局・課	財政局管財課	令和4年度 事業評価書 番号	2 - 0 - 0 2	
事業概要	実施根拠	法令等 ■ 法律 □ 条例 □ 規則 その他 □	具体的 名称	都市開発資金の貸付に関する法律			
	事業の目的 (事業開始の 経緯)	都市の計画的整備を推進するために、公共施設整備に必要な用地の先行取得資金を借り入れ、これに伴う元利償還金を他会計と区別して経理する。					
	具体的な 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 先行取得資金の借り入れ及び元利償還金の経理 用地取得及びそれに伴う補償についての支出 都市開発資金保有土地の一般会計への処分 					
		本事業は右記に該当するため、以降の記載を一部省略します。		<input type="checkbox"/> 法令に基づく義務的経費 <input type="checkbox"/> 内部事務経費のみ			
事業実績	達成指標		指標名(単位)	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
	取得面積(ha)	目標	—	—	—	—	—
		実績	0.4	0.5	0.2	0.1	
	借入金額(億円)	目標	—	—	—	—	
		実績	4	6	3	4	
	上記の指標で定量的な設定が困難な理由		事業を計画的かつ円滑に進めるために、各事業局の計画に合わせて取得や処分を行っているため。				
	予算額・ 執行額・ 事業費の 推移			平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
		現計予算額		1,817,545千円	1,915,951千円	1,495,274千円	1,234,139千円
		支出済額		1,200,532千円	1,527,512千円	1,494,441千円	1,232,761千円
		繰越額		0千円	0千円	0千円	0千円
差▲引		617,013千円	388,439千円	833千円	1,378千円		
執行率(%)		66%	80%	100%	100%		
人 件 費		一般職職員	1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	
		再任用職員	0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	
	概算人件費	8,785千円	8,823千円	8,770千円	8,770千円		
総事業費		1,209,317千円	1,536,335千円	1,503,211千円	1,241,531千円		
増▲減		—	327,018千円	▲ 33,124千円	▲ 261,680千円		
事業評価 の視点 による 点検・ 検証・ 評価	本市が行う 必要性	都市の計画的整備を推進するために、公共施設整備に必要な用地の先行取得資金を借り入れ、これに伴う元利償還金を他会計と区別して経理する会計として必要である。					
	事業目的に 対する 有効性	概ね10年以内に事業化される見込のもの、土地所有者の買取の申し出のあったもの等の用地取得に都市開発資金を利用することで事業の着実な進捗、財政負担の平準化等が図られている。					
	本事業の 効率性・ 類似性	先行取得資金の借り入れや元利償還金の経理、保有土地の処分等を円滑に行っている。					
	市民等外部 意見を聴取 する仕組みと 反映状況	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	内部事務費を経理する会計であるため、外部意見を反映する仕組みを設定していない。				
	自己評価 及び 事業見直し の方向性	引き続き都市の計画的整備を推進するために、計画的な先行取得資金の借り入れ及び元利償還を行う。					
本資料は、公正・適正に作成しました。			課長 栢沼 伸茂	係長 八田羽 拓也	管財 係 遠藤 明日香		

令和4年度事業評価書

令和3年度 事業名	3 款 項 目 公共用地先行取得事業費		所管区局・課	財政局管財課	令和4年度 事業評価書 番号	3 - 0 - 0 3	
事業概要	実施根拠	法令等 ■ 法律 □ 条例 □ 規則 その他 □	具体的 名称	地方財政法			
	事業の目的 (事業開始の 経緯)	国の地方債発行許可により民間資金の導入を図り、公共施設整備に必要な用地先行取得の円滑化を進めるため開始した。					
	具体的な 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・先行取得資金の借り入れ及び元利償還金の経理 ・用地取得及びそれに伴う補償についての支出 ・公共用地先行取得債保有土地の一般会計等への処分 <p>本事業は右記に該当するため、以降の記載を一部省略します。 □ 法令に基づく義務的経費 □ 内部事務経費のみ</p>					
事業実績	達成指標		指標名(単位)	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
	用地取得(億円)	目標	—	—	—	—	—
		実績	0	0	0	0	
	処分(億円)	目標	—	—	—	—	
		実績	24	40	28	251	
	上記の指標で定量的な設定が 困難な理由		事業を計画的かつ円滑に進めるために、各事業局の計画に合わせて取得や処分を行っているため。				
	予算額・ 執行額、 事業費の 推移		現計予算額	4,735,210千円	14,642,517千円	10,843,815千円	3,244,212千円
			支出済額	4,735,208千円	13,796,308千円	10,843,814千円	3,244,212千円
			繰越額	0千円	0千円	0千円	0千円
			差▲引	2千円	846,209千円	1千円	0千円
		執行率(%)	100%	94%	100%	100%	
人 件 費	一般職職員		1.0人	1.0人	1.0人	1.0人	
	再任用職員		0.0人	0.0人	0.0人	0.0人	
	概算人件費		8,785千円	8,823千円	8,770千円	8,770千円	
	総事業費		4,743,993千円	13,805,131千円	10,852,584千円	3,252,982千円	
		増▲減	—	9,061,138千円	▲ 2,952,547千円	▲ 7,599,602千円	
事業評価の 視点による 点検・ 検証・ 評価	本市が行う 必要性	市債を財源とした用地先行取得債の償還を円滑に行う会計であり、用地の計画的な買い替えを促進し市債の償還を円滑に行う責務があるため、必要な事業である。					
	事業目的に 対する 有効性	用地取得依頼局に対し、用地の買い替えを促すとともに、該当年度に必要な市債償還額を確保し償還を円滑に行っている。					
	本事業の 効率性・ 類似性	市債を財源とした用地先行取得のための会計であり、他の起債可能な事業以外の事業を対象としている。					
	市民等外部 意見を聴取 する仕組みと 反映状況	□ 有 ■ 無 公共事業用地の先行取得資金を経理する会計であるため、外部意見を反映する仕組みを設定していない。					
	自己評価 及び 事業見直し の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・用地取得依頼局に対し、用地の買い替えを促すとともに、市債償還額を確保し償還を円滑に行っていく。また、公共施設整備のために必要な用地先行取得については、精査の上、将来的な財政負担を勘案しながら対応していく。 ・時価より大幅に高い簿価での所管換えに対応できず事業未定土地の利活用が進まないことや一般会計等に所管換えされことなく事業化された土地が増加していることが課題となっている。こうした中、令和3年度に、所管換えが未了となっている供用済み土地のうち、今後国庫補助等による買替えが見込まれない土地について、一般会計へ財産を異動し、財務書類上、有形固定資産として適正に位置づける見直しを行った。また、令和3年度以降に事業化する場合の所管換え価格については「時価または簿価の低い方」とし、事業未定土地の利活用を促進していく。 					

本資料は、公正・適正に作成しました。

課長

栢沼 伸茂

係長

八田羽 拓也

管財係

遠藤 明日香

令和4年度事業評価書

令和3年度 事業名	1 款 項 目 市債金会計		所管区局・課	財政局財源課	令和4年度 事業評価書 番号	1 - 0 - 0 1	
事業概要	実施根拠	法令等 ■ 法律 ■ 条例 □ 規則 その他 □	具体的 名称	地方財政法、地方自治法、横浜市公債条例、 横浜市減債基金条例			
	事業の目的 (事業開始の 経緯)	市債の発行に伴い元利償還金当について、各会計を整理するための特別会計。					
	具体的な 事業内容	市債の発行に伴う元利償還金の支払い。					
		本事業は右記に該当するため、以降の記載を一部省略します。		□ 法令に基づく義務的経費 ■ 内部事務経費のみ			
事業実績	達成指標		指標名(単位)	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
			目標 実績				
			目標 実績				
			上記の指標で定量的な設定が 困難な理由				
				平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
			現計予算額	534,221,303千円	549,469,399千円	491,365,024千円	450,840,516千円
			支出済額	533,103,470千円	548,215,045千円	489,295,914千円	450,064,997千円
			繰越額	0千円	0千円	0千円	0千円
			差▲引	1,117,833千円	1,254,354千円	2,069,110千円	775,519千円
			執行率(%)	100%	100%	100%	100%
	人 件 費	一般職職員		13.0人	13.0人	13.0人	13.0人
		再任用職員		0.0人	0.0人	0.0人	0.0人
		概算人件費		114,205千円	114,699千円	114,010千円	114,010千円
総事業費		533,217,675千円	548,329,744千円	489,409,924千円	450,179,007千円		
		増▲減	—	15,112,069千円	▲ 58,919,820千円	▲ 39,230,917千円	
事業評価の視点による点検・検証・評価	本市が行う 必要性						
	事業目的に 対する 有効性						
	本事業の 効率性・ 類似性	市債の発行に伴う元利償還金等の支払いであるため、必須のものである。					
	市民等外部 意見を聴取 する仕組みと 反映状況	□ 有 ■ 無					
	自己評価 及び 事業見直し の方向性	市債金会計は、市債の発行に伴う元利償還金等について各会計を統合整理するための会計であることから、見直しを実施できる余地はない。					

本資料は、公正・適正に作成しました。

課長

足利 有喜

係長

馬場 誠

市債 係

栗原 真央